

公益社団法人隊友会

館山支部だより

第73号

支部の連絡窓口

千葉県隊友会館山支部
事務局(代表) 川村 巖
〒294-0032館山市笠名1357
電話0470(22)0230
メール g_marine@f5.dion.ne.jp

平成28年度を迎えるに際して

団体にとって年度の切り替えは、事業活動のけじめを付ける上で大事な節目と言えましょう。館山支部は千葉県隊友会の一支部として、県・支部の事業方針に基き事業活動を推進しておりますが、この節目に年度の活動を見直し工夫改善を加えることで、少しでも支部活動の充実を目指して鋭意努力する所存ですので、会員諸兄の絶大なご協力をお願い致します。 <支部長>

支部活動の概要

<<2・3月の活動実績>>

- 3. 3(金) 千葉県隊友会理事・支部長会議(千葉)
- 3. 20(日) 館山市戦没者慰霊祭(鶴谷八幡宮)
- 3.26(土) 支部常務理事会
- 4. 2(土) 支部年度末総活役員会(コミセン)(予定変更)

<<4・5月の活動予定>>

- 4. 10(日) 千葉県護国神社春季例大祭奉仕作業(千葉)
- 4.20(水) 28年度千葉県隊友会通常総会(千葉)
- 5. 9(月) 千葉県隊友会防衛セミナー(千葉)
- 5.14(土) 28年度館山支部総会(館空会との合同行事)
- 5.27(水) 旧海軍戦没者慰霊祭(安房神社)
- 5.28(土) 支部役員会(コミセン)

平成28年度館山支部総会等行事のお知らせ

恒例の館空会・隊友会館山支部合同の総会等行事を次のとおり行います。年1回、多くの会員が一堂に会して相互に健康・動静を確認し合い、さらに交流を深めるための好機であります。特に新しく入会された会員の皆さんにとって、第二の人生(社会)での新たな出会いとともに、かつて自衛隊で(陳腐化した言葉ですが)“釜の飯を共にした”皆さんとの旧交をあたためる上での貴重な機会になることでしょう。皆さんの積極的な参加をお待ちしております。 <支部長>

行事ご案内

日時：28. 5. 14(土) 15:30~20:15
 場所：館山カントリークラブ ☎0470(29)1115
 行事：右欄「総会等行事細部・時程表」とおり。
 懇親会には第21航空群司令はじめ各隊司令、隊員代表の参加が予定されています。

会費：男性6,000円 女性3,000円
 送迎：送迎便については別途、参加者に連絡します。
 出欠：返信ハガキで4月20日(水)までに投函して下さい。
 なお、館空会に所属する会員は、館空会からの案内に基づいて返信して下さい。

総会等行事細部・時程表
 15:10~ 受付開始
 15:30~16:10 隊友会館山支部総会
 16:20~17:00 館空会総会
 17:10~18:10 時局講演会
 講師：(株)アスカ代表取締役 丸 淳一氏
 最近の著書「誰がこの国を守るのか」
 ・尖閣諸島問題と集団的自衛権の行使
 ※当初予定の宇都隆史参院議員の講演は政務の都合で取り止めになりました。
 18:20~20:15 館空会との合同懇親会

千葉県隊友会ホームページへの投稿

「憲法・安保」を「市民に問う」

「憲法・安保」を「市民に問う」
2016. 5
千葉県隊友会館山支部

<HP PP-A4版8面>

今回の安保論争が、60年安保、70年安保と比べ、マスメディアによる「立憲民主政治の破壊」、「戦争突入法案」や「自衛隊員のリスク・戦死者の増大」いった国民の不安、恐怖心を煽る心理作戦が目立ち、さらには「憲法学者らの違憲判断」という憲法を盾にとって政府を追い詰めようとする戦術は、進化と見るべきか？

しかし毎回、「議論不十分」、「多くの国民が理解していない」が繰り返され、「日本の防衛をどうすべきか」という問題の本質を避けようとする姿勢が依然として変わらず 進化が見られないと思うのです。

マスメディアがさかんに口に頼りにする「民意・国民の声」はちよっと信用できないので、憲法・防衛について一般の人たちが どう考えているのか、拙稿を投げかけ “市民に問う” てみようと思いついた次第です。

タイトル「憲法・安保をめぐる果てしなき論争
 ・その由って来るところを究める」(房日紙、4連載)

これによって少しでも、マスメディアの報道の感化・洗礼を受けた人たちの、防衛・安保に対する偏った考え方の“矯正・是正”に結び付き、防衛の任に就く隊員諸官にとっていささかなりとも励みになれば望外の喜びとするものです。 <川村 記>

会員の異動

2月期 永島 正義会員(海、21整補隊)入会 館山支部への即日入会を歓迎致します。

館山市戦没者慰霊祭から 3月20日(日) 鶴谷八幡宮

平成28年館山市戦没者慰霊祭の催行

慰霊祭は、館山市長、第21空群司令、三澤県議、藤田元海幕長ほか、館山地区遺族会会長、遺族会代表等約60名が出席、館山支部としては今回初めて出席しました。神社本殿において、祭主による修抜の儀・祝詞奏上・玉串奉奠等の一連の儀式が厳粛に執り行われ、日清戦争から日露戦争、太平洋戦争中に散華された英霊1,877柱に対する哀悼の誠が捧げられました。終って境内の忠霊塔に移り、全員による玉串奉奠が行なわれ 平成28年戦没者慰霊祭が滞りなく終了しました。<支部長>



<忠霊塔前にて 鎌形第21空群司令>

<注>戦没者の慰霊顕彰について

千葉県内36市の戦没者慰霊行事のほとんどが、自治体主催で行われておりますが、館山市だけは神社の主催で行われています。市の広報誌によれば昭和49年頃までは市の主催で行われていたようですが、現在は宗教法人の主催になっています。遺族会の意向、要望によるものという話もありますがその経緯は不詳です。日本の戦没者慰霊の形態が、大きくは政府・自治体の主流になっている「国民的慰霊(無宗教)」と、宗教法人・協賛団体による「国家的慰霊」の2本立になっているのも、GHQの占領政策の影響によるものと言えるでしょう。 <川村 記>



<本殿に奉納された 南洋の亀(注)>

(注)慰霊祭での鎌形群司令の挨拶の中で紹介されたもので、戦時中、南洋の戦地から洲ノ埼海軍航空隊(大賀)にはるばる送られてきたとのこと。終戦時、米軍に没収されるのをおそれ、鶴谷八幡宮に保管(奉納?)をお願いしたものがそのまま今日まで残されているとのことでした。

随想

館山の街中(まちなか)に見る“異次元の世界?”

全国紙の千葉版に「かにた婦人の村」が紹介されていた。記事では「昭和40年に“旧海軍の砲台跡を買収して建てられ、創設50年を迎えた」とある。この施設は、東京の奇様な牧師の手によって、赤線禁止法に伴い社会復帰の難しい女性たちの長期保護施設として建てられたもので、当初の入所者のほとんどが世代交代し、現在は“別の事情”で入所した女性が100名近くいると言われる。かつては自給自足を目指して酪農や野菜・果実栽培などが盛んに行われていた。

旧海軍構築物の宝庫

本題の「海軍砲台」について若干、雑学を披露すると、昭和18年初めの海軍の施設計画では「館空高角砲陣地」が山頂付近に建設されるようになっていた。その痕跡を調べるため、10年ほど前、許可をもらって現地を探索してみたことがある。麓から山頂に至る人跡未踏の灌木林を辿ってみると、ほぼ計画図どおりの曲がりくねった道路跡を確認できた。幅、勾配、曲率半径から見て軍用トラックが通れる砲台道路と断定できた。また道路沿いにコンクリ製の格納壕が数箇所あったが、肝心の砲台跡らしきものは何もなく、高角砲の台座工事前に終戦を迎えたものと思われる。

また、敷地内の山腹には「戦闘指揮所」のある地下壕がある。これを“発掘”した館山の元高校教師の書には「本土決戦の重要抵抗拠点」などともっともらしい記述があるが見当違いである。これは直ぐ傍にあった「洲ノ埼海軍航空隊(兵器整備員養成学校)」のもので、予想される空襲に備えて19年末に完成させた防空施設である。壕内の「戦闘指揮所」の標札(写真)や天井の「竜の彫り物」など、海軍の施設としては異色である。この山の麓(大賀)には、同時に建設された2万名を収容できると言われる「兵員用防空壕」跡もあり、いずれも海軍の防空施設建設の“モデル”として文書で全部隊に通達されている。



<戦闘指揮所壕内>

館空レーダー基地、陸軍128高地

この敷地と小さな谷を挟んで南側に標高128mの小山がある。前述の海軍の施設計画では山頂付近に「館空電探(レーダー)基地」が建設されることになっていた。海軍航空本部の記録(20. 6)によれば、館空に改良型レーダー2基が配備されたことになっていた。これも探索してみたが僅かに建物跡とおぼしき窪地を確認できた程度であった。

また、房総の本土決戦部隊として配備が進められていた陸軍・東京湾兵団の抵抗拠点の一つとして山頂に「128高地」が計画されていたが、途中で計画が変更になったようで、数箇所の塹壕とそれらを結ぶ間道(連絡通路)をはっきりと確認できた。

道すがら気付いた山頂付近の「2等三角点」の石柱が倒れていた(悪戯で倒された?)ので親切気から国土地理院に連絡しておいたがその後どうなったかは・・・

なぜか「従軍慰安婦の碑」が・・・

調べてみると、昭和60年頃、元従軍慰安婦だったという入所者の女性の体験告白がもとになって、牧師の手で敷地内の山頂に「嗚呼従軍慰安婦の碑」が建てられたという。折しも、朝日記者による従軍慰安婦の捏造記事に端を発し、これに飛び付いた韓国メディアが韓国の世論を沸騰させた時期で、それが世界中に広がってしまったのである。無責任の極み！この従軍慰安婦碑の存在をネットを通じて全国に発信したのは、館山の某NPO理事長を務める元高校教師であった。現在もネットで見学団体を募り、戦跡案内の目玉コースとして情宣を続けている。

そもそもこの碑を外から閉ざされた施設敷地内の山頂に建てた牧師の意図は、一般公開とか他人に見せるためでは無かったと思うのであるが・・・ “知る権利、知らせる義務”を振りかざす報道とは、実に怖ろしく無責任な一面を持って、いることを改めて思い知らされた感がある。 <自称地域史探索マニア(海) その7>